

## 平成 16 年度 研究開発型ベンチャー技術開発助成事業一覧(単独申請型)

	事業者名 開発期間	事業名	事業概要
1	株式会社リブテック H16.7～H18.6	肝臓幹細胞モノクローナル抗体を用いた肝臓診断薬、治療抗体の開発	肝臓撲滅には、早期発見の為の特異性の高い腫瘍マーカー、および肝臓に特異的な分子標的医薬品の開発が必須である。弊社は、神奈川科学技術アカデミー(宮島篤プロジェクトリーダー)における研究成果を事業化する目的で、同プロジェクト研究員が中心となり設立したベンチャー企業であり、「ヒト肝臓癌に特異的な膜/分泌蛋白質である Dlk に対するモノクローナル抗体」を利用した肝臓診断薬、治療抗体の開発を行う。
2	クリングファーマ株式会社 H16.7～H18.6	新規癌転移・血管新生抑制分子 NK4 の組換えタンパク質の開発	NK4 は、大阪大学で発見された新規癌転移・腫瘍血管新生阻害タンパク質である。NK4 は、マウスに移植したヒト悪性腫瘍を良性腫瘍のごとき凍結・休眠状態に封じ込める作用を有しており、これまでにない新しい制癌法の確立につながる独創的シーズ技術である。本技術開発では、将来の臨床応用可能な遺伝子組換え NK4 タンパク質の酵母による大量生産、ならびにそれを用いたドラッグ・デリバリー・システム(DDS)の開発と制癌作用・安全性・副作用の検討を行う。
3	株式会社クリーンベンチャー21 H16.7～H18.6	太陽電池用高品質シリコン球の超高速製法と高効率化技術の開発	「単結晶並みの結晶品質を持つ高性能シリコン球を超高速(1,000 球/秒)で工業的に製造する技術」及び「このシリコン球を用いた球状太陽電池セルの高効率化(変換効率 16%)技術」を確立する。この高効率球状セルをマイクロ集光型球状シリコン太陽電池として商品化し、出力当りのシリコン使用量を現行太陽電池比 1/5 以下に低減し、かつ軽量性・フレキシブル性・形状対応性に富む画期的な低コスト太陽電池を実現する。
4	株式会社エコロン H16.7～H18.6	高耐圧低リーク電流デバイスの実用化開発	成長速度が速く、高品位炭化ケイ素(SiC)エピ基板の作製技術として優れている極薄融液液相成長を実用化レベルで実現できる高温真空成長炉を開発し、その開発装置で作製した厚膜 SiC エピ基板を用いて低リーク電流で高耐圧性能を有する JBS 構造の SiC 半導体デバイスの実用化開発を実施する。

5	<p>ヒュービットジェノミクス株式会社</p> <p>H16.7～H18.6</p>	<p>糖尿病性腎症の早期発見を可能とする画期的診断キットの開発</p>	<p>徳島大学との共同研究の成果をもとに、糖尿病患者における腎症の早期発見が可能な診断キットを開発する。糖尿病性腎症は一定期間の糖尿病罹患の後、蛋白尿、高血圧、腎機能障害が徐々に進行するが、アルブミン尿による診断と腎病変は必ずしも一致しない。このため、早期に腎症の診断ができれば、腎症の進行を阻止する薬剤治療によって、透析療法を導入する患者数を減らすことが可能となり、医療経済上のメリットが期待される。</p>
6	<p>株式会社システム・ファブ리케이션・テクノロジーズ</p> <p>H16.7～H18.6</p>	<p>次世代マルチチップ・アーキテクチャーSiS(システム・イン・シリコン)の開発</p>	<p>SoC(System on Chip)は、高性能・高機能である反面、開発期間が長く初期開発コストが高いため、製品サイクルが短く少量多品種生産のデジタル家電に適用しづらい。そこで SoC の設計環境資産を活かしつつ、マルチチップ実装を実現する低消費電力型のマルチチップ・アーキテクチャーSiS を提案する。これにより 2006 年にメモリ 256M ビット以上・ロジック 200 万ゲート以上、バンド幅 100Gbps のチップを量産価格 2000 円で設計・製造することが可能な技術を開発する。</p>
7	<p>株式会社フェニックスバイオ</p> <p>H16.7～H18.6</p>	<p>次世代ヒト肝細胞キメラマウスの実用化開発</p>	<p>マウス肝臓の 80%以上がヒト肝細胞で置換されたキメラマウスは新薬開発の強力なツールとしての期待が大きい。私達は大学発の成果をもとにベンチャーを立ち上げ、キメラマウスの生産、薬物動態試験の受託試験を開始した。本事業では、免疫不全をさらに増強したキメラマウス、補体抑制剤の投与を必要としないキメラマウス、さらには、マウス P450 の活性がないキメラマウスなどの、次世代ヒト肝細胞キメラマウスの作製を行う。</p>
8	<p>株式会社 iGENE</p> <p>H16.7～H18.6</p>	<p>siRNA ベクターライブラリーと効率的スクリーニング法の開発</p>	<p>RNA 干渉技術は遺伝子の発現抑制を簡便に行うことを可能にする新しい技術であり、遺伝子の機能解析のための有力な手段を提供する。本事業は、アルゴリズムを用いた配列予測システムを用いて活性の高い短鎖干渉 RNA (siRNA) のデザインを行って高品質の siRNA ベクターライブラリーを作成し、細胞の表現型の変化を指標にして遺伝子の機能解析を迅速かつ効率的に行う方法を開発することを目的とする。</p>

9	<p>超音波醸造所有限会社</p> <p>H16.7～H18.6</p>	<p>揮発性有機化合物高度分離のための省エネルギープロセスの開発</p>	<p>現在蒸留法を用いて精製されている分離プロセスでは蒸留塔が用いられることが多い。蒸留プロセスは設備設置スペースが大きく、生産リードタイムが長く、多品種少量生産に適さず、エネルギー多消費型のプロセスであった。本開発では、超音波分離と膜分離を組み合わせた新規技術を開発することによって、上記蒸留法の持つ問題点を解決した新規プロセスを開発する。</p>
10	<p>株式会社アセック</p> <p>H16.7～H18.6</p>	<p>フェースダウン・自公転式大規模 GaN 系 MOCVD 設備の開発</p>	<p>優れたエピタキシャル結晶品質を可能とするフェースダウン構造等を特長とする、世界最大規模の GaN 系 MOCVD 設備を開発・実用化することにより、照明用白色 LED 等の生産コストの大幅な低減に寄与すると共に、外国製品の独擅場である MOCVD 設備市場における国産製品のシェアを確保する。</p>